

第299号・2026年4月1日 (水)

発行・東北大学職員組合書記局

〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1-1
内線 片平 (91) 5029

022-227-8888 (TEL) 022-227-0671 (FAX)

<https://tohokudai-kumiai.org/>

編集・コア編集委員会



***未払い賃金は直ちに支払え！**

***雇い止めを許さない！**

***仲間とともに職場を変えよう**



片山知史執行委員長

歓迎の メッセージ

働きやすい職場をめざして
待遇改善へ
組合に加入を！

執行委員長 片山知史

今春に新しく東北大学の教職員として入職されたみなさんに、心より歓迎のメッセージをお伝えいたします。

東北大学には教職員で作る職員組合があります。私たちの身分を守り、待遇を改善するために日々活動しています。

大学が一方的に決めるのではなく、教職員の意見を聞く必要があります。特に不利益な変更については、組合との協議を経なければなりません。組合は職場のルールを決め、職場を良くする重要な組織なのです。

では、なぜ私たちが組合を組織しているのでしょうか。まず、私たちの働き方や待遇は、

卓越研究大学が始まって仕事に余裕ができるかと思われたが、ますます過剰労働やサービ

は、雇われの身であり弱い立場です。そして理不尽なことがあっても、一人ではなかなか解決できません。

みなさんご存知のように、東北大学では2018年春に非正規職員の大規模な雇止めが行われ、その後も雇止めや解雇が続いていきます。国際

卓越研究大学が始まって仕事に余裕ができるかと思われたが、ますます過剰労働やサービ



東北労金をご利用ください

※コンビニエンスストア等のATM引出し手数料

実質0円

※住宅ローンや車のローンなどの各種ローン

組合員は金利引下げ！

教職員共済

教職員のための制度です

- 教職員賠償 ⇒ 総合共済
- 病気・ケガ ⇒ トリプルガード
- ケガ・賠償 ⇒ レスキュースリー
- 災害 ⇒ 火災共済
- リタイア後 ⇒ 年金共済
- 死亡・重度障害 ⇒ 新・終身共済
- 自動車事故 ⇒ 自動車共済
- ・・・自動車共済は『事故あり等級表 (二重の負担増)』なし

(2面より) 大学は、2004年の法人化以降、総長ではなく労務担当理事が出席しています。労務担当理事は、経営側のただの理事です。自分の判断で発言できませんし、協議を通じて方針を示すことができません。現労務担当の山下理事は、その傾向が極めて強く、カンペを読みながら既定の発言を繰り返すのみです。組合が提案や要求を示しても、「ご意見として受け止めます」と述べるだけです。山下労務担当理事は、総長から一任されていると言いますが、いずれの事項についても同じ説明で、話し合いを受けて自らの判断を示すことなく、極めて不誠実な対応に終始しています。組合は、団体交渉に総長が出席するか、総長と直接協議する場を設けるよう強く求めましたが、やはり「ご意見として受け止めます」でした。

2・3月の運動

2/14 第65回宮城はたらく女性のつどい ジェンダー平等を高校の社会科授業から



44名が参加

2月14日、第65回宮城はたらく女性のつどいが開催されました。第一部の職場交流では、介護・医療・教育の各現場から現状報告がありました。いずれの分野も私たちの生活に密接に関わっており、厳しい状況の中でも子どもや利用者のために懸命に取り組み姿に大きな励ましを受けました。「自分自身が幸せでなければ、他の人を幸せにすることはできない」という言葉が特に印象に残りました。

講演では、高校の社会科教員である豊永敏久先生が「ジェンダー平等」をテーマに、高校で実際に生徒へ教え

ている内容を中心にお話されました。とりわけ、タテ社会(上下関係)からヨコ社会(平等)への転換について説明はわかりやすく非常に納得できるものでした。

参加者からは、「平等というものの考え方を見直す機会となった」「教育の民主化、民主主義の教育はとても重要だと思う」などの感想が寄せられました。

3/6

映画「女性の休日」観てきました

全国で女性の休日の行動が企画されている中、東北大学の先生たちが「女性の休日プロジェクト仙台ネットワーク」(1月末〜5月末、活動期間限定)を立ち上げ、映画上映や交流の企画を立ててくれました。県労連女性部として賛同し、映画を観ることができました。(M)

※「女性の休日」とは?

世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数で16年連続世界1位を記録するアイスランドの、全女性の90%が仕事も家事も一斉に「休んだ」とされる日。1975年10月24日。

※映画「女性の休日」とは?

エミー賞受賞歴のあるアメリカ人監督パメラ・ホーガンさんが、アイスランド旅行中に偶然知った「女性の休日」に興味を持ち、この出来事を題材にしたドキュメンタリー映画。

3/8

国際女性デー 第66回宮城県集会



「ジェンダー平等が実現する社会を求めて」をテーマに山田いずみ弁護士氏が講演。その後、プラカードを掲げてスタンディングを行いました。

3/28

さよなら原発 宮城県民集会

福島原発事故から15年。「原発ゼロの日本」をもとめて400名が集いました。



エフエムたいはく

「いま、学問は・・・」に

出演しました

執行委員長 片山知史

仙台市太白区のローカルラジオ局「エフエムたいはく」では、昨年の18周年を機に、大

学問題を取り上げています。学術会議問題が発端だったそうです。その後、毎月第3木曜日17時〜17時半、「いま、学問は・・・」として、対談形式で放送されています。

私は、現場の実態を説明して欲しいという

2月18日放送分は、主に国立大学法人化後の大学、3月18日放送分は、大学の自治、学問の自由、そして学費値上げについて、取り上げました。

私は、法人化後の大きな変化として、教授会は形が変化し、トツプダウンの意思決定が強化されたこと、運営費交付金の継続的な減少に伴い、外部資金に依存せざるを得なくなり、産業界に直接役に立つ研究が多く行われるようになったことを説明しま



左から片山氏、小野寺氏、佐久間氏

こと、佐久間敬子弁護士、小野寺義象弁護士とともに、収録に参加しました。

「エフエムたいはく」は、地域外からもサイマルラジオで聞けるようです。

<https://csra.fm/stationlist/#tohoku>

川内キャンパスで初の昼宣伝

東北大学職員組合の声を 学生・教職員のまへへ

長らく片平キャンパス北門で昼宣伝を行ってきましたが、1月19日、初めて川内北キャンパスの生協前でもこ

れを実施しました。とりわけソ連崩壊後、1990年代以降のネオリベリズムの進展のなかで労働者の権利は侵食され、その背景にあるイデオロギー的な作用もあって、大学教員のあいだでも「職員」としての当事者意識や連帯の感覚は次第に薄れてきました。こうした状況のもと、組合員数の減少という大きな課題を打開する一つの試みとして、教職員や学生が多く行き交う川内で声を上げることで、組合の訴えをより広い層に届けようとなりました。

当日は、組合員の演説に足を止めて耳を傾ける学生が相次ぎ、留学生も含めて、「自分にも何かできることはないか」と声をかけてくる姿が見られました。また、東北大学の学生運動に関わる方々

も参加し、この活動を支援してくれました。この取り組みを通じて、普段は組合活動と接点の少ない人々とも問題意識を共有することができたのみならず、職員の労働環境をめぐる課題と学生が直面する問題とのあいだに共通する地平があることも示され、両者が連帯しうる可能性が浮かび上がりました。2026年度からも、川内での活動を継続し、さらに他のキャンパスへも広げていきたいと考えています。

(文系支部
オリオン・クラウタワー)



たくさんの方が足を止めてくれました

今回の紙面では、未払い賃金問題や非正規職員の雇い止め、団体交渉の状況、女性たちの運動などを取り上げました。これらは、働く者の権利や職場のあり方に深く関わる問題です。一人では変えられないことも、仲間となら変えられる――その思いを共有し、引き続き取り組みを進めていきます。

ラジオ番組「いま、学問は・・・」でも大学の現状を発信しています。ぜひお聞きください。

(編 〇)

映画

陽なたのファーマーズ

フジシマの希望

4月12日(日)

1回目 10時〜

2回目 12時30分〜

3回目 15時〜

前売り券

1,000円

仙台メディア

テークにて

編集後記